

競争原理と自由経済システムにおける進歩という現実と構築される問題

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

競争は進歩を与える。但しこれらはヒエラルキーをなすのである。人々はそのヒエラルキーにおいて頂点を追うのである。

これらは世界の現実への正しい考察である。自由経済システムという正義は、それらの守護者であり、アメリカ合衆国における正義はこれに寄るものである。

他方における競争という進歩はその必然性と必要性における歴史の進歩と同じである。これらは戦争が進歩を形成したことの証明が存在するのである。

今日における経済システムは、経済がすべての人々の生活の基盤であることにおいて、競争と資本主義、自由経済システムと自由貿易システムが現実なのである。

これらは生存競争という動物の生態系のルールの進捗性であることは真実なのである。他方において知性は、哲学において、新しい世界の創造を挑戦するのである。

これらは動物的本能と知的進歩の対立であり、歴史の終焉は、知性における勝利を約束するはずである。これは恐竜と哺乳類の絶滅と栄華と、同じであることは皮肉である。

人々の時代という新しい現実は、20世紀におけるアメリカの戦いと革命の結果である。人々はその自由を渴望することは、過去において彼らが奴隷であることの証明なのである。

西洋における人道主義は、全ての強権性を否定するものである。これらは現在の世界の正しい考察である。

これらからの理解は、自由は人々の渴望であり、人道性は世界のルールであるということである。

新社会主義というアイディアは、競争という現実から、融和と共生という新しい現実への転換である。これらは平等性という変化が、競争における生態系のヒエラルキーにおける現実の占有から、知性という新しい創造への転換を提案するものである。